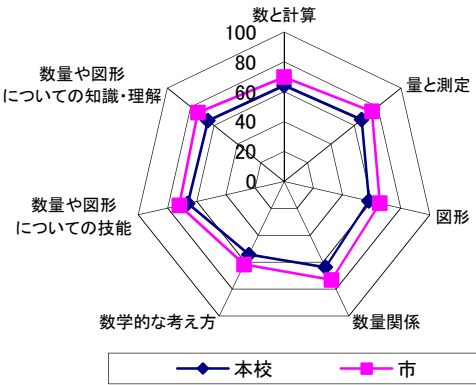


宇都宮市立御幸小学校 第3学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	64.1	69.8
	量と測定	66.3	75.2
	図形	58.2	65.7
	数量関係	63.7	73.1
観点別	数学的な考え方	54.4	61.7
	数量や図形についての技能	66.1	72.0
	数量や図形についての知識・理解	65.1	73.8



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	- 市平均よりも低かった。 - 特に数の相対的な大きさについての理解が不十分な児童が多かった。 - 計算問題に関しては、市の平均とほぼ同じである。	- 計算をミスを減らしていくために、今後もドリル学習をすすめていく。 - 大きな数の位取りや表記方法についての理解が不十分であったため言葉や図などを用いて説明させる活動形態をとり、学びを共有化させる。
量と測定	- 市平均よりも低かった。 - 時刻、長さ、重さの測定や計算および、単位などの理解が不十分な児童が多かった。	「長さ」や「時刻と時間」、「重さ」について、単位が表す量感の違いや、適切な単位を選択できるようにするため、体験的な活動を取り入れ、具体物や生活経験につなげて考えさせることで定着を図る。
図形	- 市平均よりも低い。 - 直方体の辺や面についての理解が不十分な児童が多かった。	前年度の学習単元であるため、図形の学習時に合わせて立体に関する復習を行う。
数量関係	- 市平均よりも低い。 - 特に棒グラフから人数を読み取ることができなかった。 □を使って立式することは概ねできている。しかし、□を求めるところでつまづきが見られた。	- 棒グラフの表し方や仕組みの理解を習熟させるために、総合的な学習の時間など、他教科でも活用させる。 □を使った式については、しっかり文章題を読み取らせ、問題文に沿って立式できることと、□の求め方の習熟を図る。